

大学等名	相山女学園大学
プログラム名	相山女学園大学 数理・データサイエンス・AI教育応用基礎プログラム(情報社会学部)
適用モデルカリキュラム	改定前モデルカリキュラム(2021年3月29日制定)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 学部・学科単位のプログラム ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称
情報社会学部

⑤ 修了要件
 以下に示す2つの修了要件のうちのいずれか1つを満たすこと。
【情報デザイン学科:修了要件1】 必修4科目8単位
 教養教育科目「AI・データと社会」(2単位)、専門教育科目の「データ分析入門」(2単位)、「情報基礎数学」(2単位)、「データサイエンス入門」(2単位)の4科目を修得し、合わせて8単位を修得すること。
【現代社会学科 :修了要件2】 必修3科目6単位
 教養教育科目「AI・データと社会」(2単位)、専門教育科目の「社会調査入門」(2単位)、「社会データ分析基礎」(2単位)の3科目を修得し、合わせて6単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数 3 科目 6 単位 履修必須の有無 令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

【修了要件1】

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
AI・データと社会	2	○	○	○	○	○							
情報基礎数学	2	○	○										
データ分析入門	2	○	○										
データサイエンス入門	2	○	○										

【修了要件2】

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
AI・データと社会	2	○	○	○	○	○							
社会調査入門	2	○	○										
社会データ分析基礎	2	○	○			○							

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

【修了要件1】

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
AI・データと社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
データ分析入門	2	○		○																	
データサイエンス入門	2	○		○																	

【修了要件2】

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
AI・データと社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
社会調査入門	2	○		○																	
社会データ分析基礎	2	○		○																	

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

【修了要件1】

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
データ分析入門	2	○			
データサイエンス入門	2	○			

【修了要件2】

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
社会調査入門	2	○			
社会データ分析基礎	2	○			

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

【修了要件1】

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AI・データと社会」(5回)、「データ分析入門」(5,6,7回)、「データサイエンス入門」(4、5回) 相関係数、相関関係と因果関係「データ分析入門」(14回)、「データサイエンス入門」(8回) 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「データ分析入門」(1回)、「データサイエンス入門」(1回) 確率分布、正規分布「データ分析入門」(8回)、「データサイエンス入門」(9回) 点推定と区間推定「データ分析入門」(10回)、「データサイエンス入門」(10回) 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準「データ分析入門」(11,12,13回)、「データサイエンス入門」(11,12,13回) 多項式関数、指数関数、対数関数「情報基礎数学」(3,4,5回)、関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「情報基礎数学」(6,8回)、1変数関数の微分法、積分法「情報基礎数学」(9回) ベクトルと行列「情報基礎数学」(12,13,14,15回)、ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「情報基礎数学」(12回)、行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積「情報基礎数学」(13回)、逆行列「情報基礎数学」(14回)、固有値と固有ベクトル「情報基礎数学」(15回)
	1-7	アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)、並び替え(ソート)、探索(サーチ)、二分探索、バブルソート「AI・データと社会」(13回)
	2-2	構造化データ、非構造化データ、情報量の単位(ビット、バイト)、配列、木構造(ツリー)、グラフ「AI・データと社会」(2回) 画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「AI・データと社会」(14回)
	2-7	文字型、整数型、浮動小数点型、変数、代入、四則演算、論理演算、配列、関数、引数、戻り値、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「AI・データと社会」(12回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	データ駆動型社会、Society5.0、データサイエンス活用事例、データを活用した新しいビジネスモデル「AI・データと社会」(6,7回)
	1-2	データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ分析入門」(1,10回)、「データサイエンス入門」(1,10回) 様々なデータ分析手法「AI・データと社会」(4回)、「データ分析入門」(15回)、「データサイエンス入門」(15回) 様々なデータ可視化手法「データ分析入門」(2,3,4回)、「データサイエンス入門」(3回)
	2-1	ビッグデータ「AI・データと社会」(1回) ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータの活用事例「AI・データと社会」(2,3回)
	3-1	人間の知的活動とAI技術「AI・データと社会」(1回) AI技術の活用領域の広がり「AI・データと社会」(3,6,7回) AIの歴史、エキスパートシステム「AI・データと社会」(6回)
	3-2	AI倫理、AIの社会的受容性、AIに関する原則／ガイドライン、AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「AI・データと社会」(6,10回) プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AI・データと社会」(10回)
	3-3	機械学習、学習データと検証データ「AI・データと社会」(2回) 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AI・データと社会」(15回)
	3-4	実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識)「AI・データと社会」(14回)
	3-9	AIの学習と推論、評価、再学習「AI・データと社会」(15回)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I 代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データ分析入門」(5,6,7回)、「データサイエンス入門」(4,5回) 相関係数、相関関係と因果関係「データ分析入門」(14回)、「データサイエンス入門」(8回)、「社会調査入門」(13,14回) 確率分布、正規分布「データ分析入門」(8回)、「データサイエンス入門」(9回) 点推定と区間推定「データ分析入門」(10回)、「データサイエンス入門」(10回) 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準「データ分析入門」(11,12,13回)、「データサイエンス入門」(11,12,13回) II データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ分析入門」(1,10回)、「データサイエンス入門」(1,10回) 様々なデータ分析手法「データ分析入門」(15回)、「データサイエンス入門」(15回) 様々なデータ可視化手法「データ分析入門」(2,3,4回)、「データサイエンス入門」(3回)
--	---

【修了要件2】

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AI・データと社会」(5回)「社会データ分析基礎」(6回) 相関係数、相関関係と因果関係「社会データ分析基礎」(11回) 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「社会調査入門」(12回) 確率分布、正規分布「社会データ分析基礎」(7回) 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準「社会調査入門」(14回)、「社会データ分析基礎」(9,10回) 1-7 アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)、並び替え(ソート)、探索(サーチ)、二分探索、バブルソート「AI・データと社会」(13回) 2-2 構造化データ、非構造化データ、情報量の単位(ビット、バイト)、配列、木構造(ツリー)、グラフ「AI・データと社会」(2回) 画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「AI・データと社会」(14回) 2-7 文字型、整数型、浮動小数点型、変数、代入、四則演算、論理演算、配列、関数、引数、戻り値、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「AI・データと社会」(12回)、「社会データ分析基礎」(4回)
(2)AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1 データ駆動型社会、Society5.0、データサイエンス活用事例、データを活用した新しいビジネスモデル「AI・データと社会」(6,7回) 1-2 データ分析の進め方、仮説検証サイクル「社会データ分析基礎」(3,5,6回) 様々なデータ分析手法「AI・データと社会」(4回)、「社会データ分析基礎」(10,11,12,13回)、「社会調査入門」(14回) 様々なデータ可視化手法「社会データ分析基礎」(5,6,7回) データの収集「社会調査入門」(7,13回)、分析目的に応じた適切な調査(標本調査)「社会調査入門」(13回) 2-1 ビッグデータ「AI・データと社会」(1回) ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータの活用事例「AI・データと社会」(2,3回) 3-1 人間の知的活動とAI技術「AI・データと社会」(1回) AI技術の活用領域の広がり「AI・データと社会」(3,6,7回) AIの歴史、エキスパートシステム「AI・データと社会」(6回) 3-2 AI倫理、AIの社会的受容性、AIに関する原則／ガイドライン、AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「AI・データと社会」(6,10回) プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AI・データと社会」(10回) 3-3 機械学習、学習データと検証データ「AI・データと社会」(2回) 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AI・データと社会」(15回) 3-4 実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識)「AI・データと社会」(14回) 3-9 AIの学習と推論、評価、再学習「AI・データと社会」(15回)
(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I 代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「社会データ分析基礎」(6回) 相関係数、相関関係と因果関係「社会調査入門」(13,14回)、「社会データ分析基礎」(11回) 確率分布、正規分布「社会調査入門」(13,14回) 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準「社会データ分析基礎」(7,8,9,10回) II データ分析の進め方、仮説検証サイクル「社会データ分析基礎」(1,2回) 様々なデータ分析手法「社会データ分析基礎」(10,11,12,13回)、「社会調査入門」(14回) 様々なデータ可視化手法「社会データ分析基礎」(5,6,7回)

社会の様々な場面で、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するために、基礎となるデータ分析やプログラミング技術を習得する。
データの基本統計量が求められることができ、基礎的な相関分析と回帰分析ができるようになる。また、データの可視化ができるようになる。
問題に対する適切な手法を選択し、基礎的なデータ分析ができるようになる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容

「数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)における、コア学修項目「3-5 生成AIの基礎と展望」の内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)について、令和7年度以降の実施・検討状況などを記載してください。(教育プログラムに含む・含める科目に限り記載し、構想を含む講義内容が記載出来る場合は記載してください)

※本項目は令和7年度先行認定より改訂版モデルカリキュラムを完全適用することを踏まえ、各大学等の実施・検討状況を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

実施・検討状況

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和6 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数 男性 0 人 女性 5055 人 (合計 5055 人)
(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
情報社会学部	133	220	220	57	0											57	26%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	133	220	220	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	26%

大学等名 相山女学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 226 人 (非常勤) 381 人

② プログラムの授業を教えている教員数 10 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 米田公則 (役職名) 大学情報教育開発センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
相山女学園大学情報教育開発センター
(責任者名) 米田公則 (役職名) 大学情報教育開発センター長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
相山女学園大学情報教育開発センター規程、相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会規準

⑥ 体制の目的
 本学における基礎的情報教育を一元的に行うとともに、情報科学技術の研究を行うために設置する相山女学園大学大学情報教育開発センターの運営方針に基づき、次の事項に関する業務を行う。
 (1)情報教育及びその方法の開発
 (2)情報科学技術の分野における研究開発
 (3)学術研究に必要な情報化に関する事項の企画及び各学部間の調整
 (4)相山女学園情報センターが実施する情報教育等の支援
 (5)その他センターの運営に必要な業務
 相山女学園大学情報教育開発センターの業務を円滑に運営するために、相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。
 (1)センター長及び教育研究主幹
 (2)各学部から選出された委員各1名
 (3)その他センター長が必要と認めたもの

⑦ 具体的な構成員
 大学情報教育開発センター
 センター長 情報社会学部 教授 米田公則
 教育研究主幹 情報社会学部 教授 松山 智恵子

大学情報教育開発センター運営委員(センター長、教育研究主幹以外)
 生活科学部 教授 村上 心
 外国語学部 教授 飯塚 恵理人
 人間関係学部 教授 五百部 裕
 情報社会学部 教授 松山 智恵子
 現代マネジメント学部 教授 石井雅治
 教育学部 准教授 渡邊 康
 看護学部 教授 高植 幸子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	26%	令和7年度予定	12%	令和8年度予定	20%
令和9年度予定	30%	令和10年度予定	40%	収容定員(名)	220
具体的な計画					
履修者数・履修率の向上に向け、大学情報教育開発センターを主体として取組・改善を実施する。数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベル申請に向けたカリキュラムは1年次と2年次の2年間で修得する設計で、令和6年度からスタートしており、令和6年度の実績はまだない。令和7年度はプログラムの周知、学生のサポート、プログラムの点検・評価を行い、改善を実施する。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「AI・データと社会」は全学部向けの教養教育科目の一つとして令和6年度から開講されており、数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルの対象科目である。情報デザイン学科では令和6年度から「データ分析入門」「情報基礎数学」が必修となっている。現代社会学科では、「社会調査入門」「社会データ分析基礎」は社会調査士資格の取得を目指す学生向けに開講されており、データサイエンスの学びを活かす資格につながる科目となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修ガイダンス等にて説明し、案内文書を大学ポータルサイトで配布し周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「AI・データと社会」(オンデマンド形式)では、毎回の講義の資料はLMSにアーカイブとして蓄積され、学生はLMSからこれらの資料にいつでもアクセスすることが可能となっている。PC実習とともなう科目においてはTAを導入し、授業中の質問対応や、PC操作のサポートをしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内では教員による学習指導を受けられる他、授業時間外でも教員にLMSやメール等で質問・相談することができる環境となっている。また、教員のオフィスアワーも全学生に知らせており、学生は対面での相談も可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会

(責任者名) 米田公則

(役職名) 大学情報教育開発センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータを大学情報教育開発センターにおいて情報共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。
学修成果	前期・後期それぞれの「授業アンケート」(全学で実施)で調査し、結果を分析することで、学生の理解度や科目の難易度を把握することができる。また、構成する各科目の履修人数、修得人数、GPAを調査し、合格率やGPAが著しく低い場合には、原因を調査して対策を行っている。結果は学部で共有し、カリキュラムの評価と改善に役立てている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	初年度である令和6年度は学生による授業アンケートを授業終了後に実施したが、次年度からは本学FDで実施している授業アンケートを実施していく。アンケートの結果については本学ポータルサイトにて公開している。アンケート結果は「AI・データと社会」科目会議において共有し、本プログラム受講者の理解度等の分析に役立てている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの履修者に対して、大学授業アンケートを実施し、授業に対する満足度や、後輩や未履修者への推奨度などの調査を行い、その結果を学生へ公開することで、本プログラムの履修を推奨するために活用する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修ガイダンス等で本プログラムの目的・意義などを説明する機会を設け、履修者数向上を図る。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度より開講されたため、当該科目を修得し、単位を修得して卒業した学生はいない。今後はプログラムを修了した卒業生の就職先実績等を鑑み、プログラム改善の判断材料の一つとする。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では「内部質保証に関する全学的な方針」を定めており、この中で外部評価を実施することとしている。この外部評価の中に本プログラムに関する事項を含めることで、本評価とすることとしたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムの科目である「AI・データと社会」において、身近な社会におけるAIの利活用をテーマにしており、数理・データサイエンス・AI教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生による授業アンケート等を参考にし、随時、学生の「わかりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。

検索条件入力

開講年度	2024年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	AI・データと社会
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	AI・データと社会		
担当教員 [Lecturer]	鳥居 隆司 / 松山 智恵子 / 向 直人 / 木田 勇輔 / 早瀬 光浩 / 福安 真奈 / 塩澤 友樹 / 矢島 彩子		
授業科目区分 [Classification]	教養教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	教養教育科目		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 土曜日 1時限		

授業テーマ [Title]	データやAIを活用するための基礎知識を学ぶ			
授業の到達目標 [Objectives]	・現代社会におけるデータサイエンスやAIの重要性について理解し、その利活用の現状について把握すること ・データやその分析結果を読み取るための基礎知識を身に付けること ・データやAIを活用するための留意事項を把握し、その重要性を理解すること ・プログラミング、アルゴリズム、機械学習などAI・データサイエンス分野における技術的基礎を理解すること			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
授業内容 [Course Contents]	本授業はメディア授業科目である。社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが利活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。(オムニバス形式/全15回)			
授業計画 [Class Plan]	1.社会で起きている変化：人間の知的活動とAIの関係性、AI・データサイエンスを学ぶ意義(木田) 2.社会で活用されているデータ：調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式(福安) 3.データ・AIの活用領域：データ・AIなど様々な領域での活用の広がり(福安) 4.データ・AI利活用のための技術：データ解析やデータ可視化の諸手法(向) 5.データ・AI利活用の現場：データサイエンスの手順、データ・AI利活用事例(向) 6.データ・AI利活用の最新動向1：AI等を活用した新しいビジネスモデルやAI最新技術の活用例(矢島) 7.データ・AI利活用の最新動向2：前回に引き続き事例紹介、現在のトレンド(矢島) 8.データを読む1：データの種類、分布、代表値とばらつきなど記述統計学の基礎知識(塩澤) 9.データを読む2：標本抽出、誤差、相関と因果など推測統計学の基本的な考え方(塩澤) 10.データ・AIを扱う上での留意事項：ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど倫理的な注意事項(松山) 11.データを守る上での留意事項：情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術と事故例(松山) 12.データ構造とプログラミング基礎：データの基本的な構造とプログラミングの基礎(鳥居) 13.アルゴリズム基礎：アルゴリズムの表現方法と基本的なアルゴリズム(鳥居) 14.画像解析：画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎(早瀬) 15.データ活用実践：教師なし学習、教師あり学習の違いと具体的事例(早瀬)			
授業の進め方 [Method]	メディア授業科目として全学部からの受講を想定しているため、オンデマンド形式で教材を配信する形で授業を実施する。受講者は教材による学習を行った上で、課題に回答すること。なお、授業の双方向性を担保するために、LMSを用いた意見表明やディスカッションを求めていることがある。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	LMSを通じて課題の得点をフィードバックする。受講者からの質問があった場合は、配信する教材やLMSを通じて回答する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☐ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☒ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他()			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	毎回の課題(100%) <評価観点>各教員が授業内容に沿った課題を10点満点で出題する。課題の形式は選択式、記述式、論述式の問題を組み合わせたものである。選択式・記述式の問題では授業の内容を正確に理解できているかを問うものである。また、論述式の問題では各自がその回のテーマについて発展的な考察を行っているかどうかを問う。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	事前学修：各回のキーワードを提示するので、その意味を各自で調べておくこと(1時間) 事後学修：授業教材を復習し、課題に回答すること。また、各回で意見表明やディスカッションを求められた場合は、それらに参加すること(3時間)			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	データサイエンスやAIは非常に重要な分野ですが、難解なイメージを持っている方も少なくないかもしれません。本授業では文系の学生もターゲットにしながら、データサイエンスやAIについてそのエッセンスを基礎から理解することを目的とした科目です。ぜひ受講を検討してください。			

履修上の注意 [Notes]	オンデマンド形式で運用しますので、自宅で受講する予定の方はインターネット環境を整備するようにしてください。授業に関する質問は全体についてはコーディネーターの木田、各回の授業についてはその回の担当者にお問い合わせください。
キーワード [Keyword]	AI、機械学習、データ、社会
教科書 [Textbook]	指定しない
参考書 [Supplementary Materials]	授業内で指示する
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	矢島:ITコンサルティング企業での実務経験に基づき、データサイエンスやAI分野における最新の動向を講義する

検索条件入力

開講年度	2024年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	情報基礎数学
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	情報基礎数学①		
担当教員 [Lecturer]	栗本 英和		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	情デ		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	前期
曜日・時限 [Day・Period]	前期 月曜日 4時限		

授業テーマ [Title]	自然現象や社会現象を可視化するための思考手段である数理的手法を、データサイエンスの観点から学び直し、データの収集、処理、解析、表現のための基礎知識と基本概念を身につけます。			
授業の到達目標 [Objectives]	データサイエンスの知識基盤である数理科学の中核概念を構成する、微分法、積分法、線形代数に関する知識と技能を修得します。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	◎			○
授業内容 [Course Contents]	高校数学における微分法、積分法、線形代数法を、データサイエンスの観点から、これらの手法がもつ特徴や意味を理解し、計算法を修得します。修得過程を通して、数理科学がデータサイエンスにとって、なぜ重要なのかに気づく。			
授業計画 [Class Plan]	各回の主題は以下です。なお、高校数学の履修状況、講義内容の理解度や修得度を考慮しながら進める予定です。 1. データサイエンスと数理科学ーデータサイエンスにおける数学の意味や価値 2. n次関数の微分法 3. 三角関数、指数関数、対数関数の微分法 4. 方程式の極大値と極小値 5. 微分法のまとめと応用 6. 面積と積分法 7. 体積と積分法 8. 積分法のまとめと応用 9. 微積分の応用ー微分方程式による現象のモデリング 10. X-Y座標系と極座標系によるベクトル表現と内積・外積 11. 行列の定義と一次変換 12. 行列と連立1次方程式 13. 行列式の定義と面積・体積 14. 固有値と固有ベクトルの定義と求め方 15. 線形代数のまとめと応用			
授業の進め方 [Method]	講義形式で行うが、演習を行う場合には主体的・能動的な学修手法を採り入れます。修得度は、知識「わかる」、技能「できる」、資質・能力「身につけている」という視点で自己点検・評価 (Self-Assessment) します。			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	提出課題や質問内容に対して、総括や講評の形で解説します。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☒ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☐ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☒ その他 (自己点検・評価及び振り返りなど)			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	中間・期末試験 (80%)、課題レポートの取組姿勢や関与等 (20%) を基に、基礎知識や基本概念の修得度や理解度、その応用力の観点から総合評価します。詳細な方針等は初回講義で示します。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	単位の実質化 (Study Load) に照らした2単位に相当する課外学修量は週3～4時間です。扱う主題や個々の既習内容に依存しますので、適切に割り当ててください。なお、事前・事後の割合は主題ごとに示します。 事前学修は、各回の主題に関する高校数学の修得知識を自己点検します。 事後学修は、課題レポートや振り返りレポートを通して、修得した知識や技能を確実にします。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	受動的から能動的な学修姿勢へ、高等教育では質的な意識転換が求められています。データサイエンスから観た情報数理の基礎知識と基本概念を学び、苦手意識を克服してください。			
履修上の注意 [Notes]	高校数学など数学関連書籍を参照・復習できるようにしておくことが望ましい。復習を十分に行っていることを前提に講義を進めるため、課外学修を確実に行ってください。			
キーワード [Keyword]	データサイエンス、数理科学、微分法、積分法、線形代数法、ベクトル、行列、行列式			
教科書 [Textbook]	中野友裕:『大学新入生のためのリメディアル数学(第2版)』, 森北出版 必要時に応じて、プリント等を配布、もしくはインターネット上で入手可能な資料を示します。			

参考書 [Supplementary Materials]	高等数学の教科書「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」、所持していれば「数学Ⅲ」、それ以外は主題ごとに示します。
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	国公私の大学に共通する Institutional Research とよばれる Metrics 手法を用いて、高等教育の内部質保証システムの構築に従事した実務経験を有します。教育学修という動的計測が必ずしも容易でない、現象や状況のモデリングやプロファイリングを通して、対象システムの動向・傾向、予兆・危機を指標で可視化するデータサイエンスの効用と利活用での課題も言及します。

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	情報基礎数学②		
担当教員 [Lecturer]	栗本 英和		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	情デ		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	前期
曜日・時限 [Day・Period]	前期 金曜日 4時限		

授業テーマ [Title]	自然現象や社会現象を可視化するための思考手段である数理的手法を、データサイエンスの観点から学び直し、データの収集、処理、解析、表現のための基礎知識と基本概念を身につけます。			
授業の到達目標 [Objectives]	データサイエンスの知識基盤である数理科学の中核概念を構成する、微分法、積分法、線形代数に関する知識と技能を修得します。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	◎			○
授業内容 [Course Contents]	高校数学における微分法、積分法、線形代数法を、データサイエンスの観点から、これらの手法がもつ特徴や意味を理解し、計算法を修得します。修得過程を通して、数理科学がデータサイエンスにとって、なぜ重要なのかに気づく。			
授業計画 [Class Plan]	各回の主題は以下です。なお、高校数学の履修状況、講義内容の理解度や修得度を考慮しながら進める予定です。 1. データサイエンスと数理科学ーデータサイエンスにおける数学の意味や価値 2. n次関数の微分法 3. 三角関数、指数関数、対数関数の微分法 4. 方程式の極大値と極小値 5. 微分法のまとめと応用 6. 面積と積分法 7. 体積と積分法 8. 積分法のまとめと応用 9. 微積分の応用ー微分方程式による現象のモデリング 10. X-Y座標系と極座標系によるベクトル表現と内積・外積 11. 行列の定義と一次変換 12. 行列と連立1次方程式 13. 行列式の定義と面積・体積 14. 固有値と固有ベクトルの定義と求め方 15. 線形代数のまとめと応用			
授業の進め方 [Method]	講義形式で行うが、演習を行う場合には主体的・能動的な学修手法を採り入れます。修得度は、知識「わかる」、技能「できる」、資質・能力「身につけている」という視点で自己点検・評価 (Self-Assessment) します。			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	提出課題や質問内容に対して、総括や講評の形で解説します。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☒ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☐ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☒ その他 (自己点検・評価及び振り返りなど)			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	中間・期末試験 (80%)、課題レポートの取組姿勢や関与等 (20%) を基に、基礎知識や基本概念の修得度や理解度、その応用力の観点から総合評価します。詳細な方針等は初回講義で示します。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	単位の実質化 (Study Load) に照らした2単位に相当する課外学修量は週3～4時間です。扱う主題や個々の既習内容に依存しますので、適切に割り当ててください。なお、事前・事後の割合は主題ごとに示します。 事前学修は、各回の主題に関する高校数学の修得知識を自己点検します。 事後学修は、課題レポートや振り返りレポートを通して、修得した知識や技能を確実にします。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	受動的から能動的な学修姿勢へ、高等教育では質的な意識転換が求められています。データサイエンスから観た情報数理の基礎知識と基本概念を学び、苦手意識を克服してください。			
履修上の注意 [Notes]	高校数学など数学関連書籍を参照・復習できるようにしておくことが望ましい。復習を十分に行っていることを前提に講義を進めるため、課外学修を確実に行ってください。			
キーワード [Keyword]	データサイエンス、数理科学、微分法、積分法、線形代数法、ベクトル、行列、行列式			
教科書 [Textbook]	中野友裕:『大学新入生のためのリメディアル数学(第2版)』, 森北出版 必要時に応じて、プリント等を配布、もしくはインターネット上で入手可能な資料を示します。			

参考書 [Supplementary Materials]	高等数学の教科書「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」、所持していれば「数学Ⅲ」、それ以外は主題ごとに示します。
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	情報基礎数学③		
担当教員 [Lecturer]	栗本 英和		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	情デ		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	前期
曜日・時限 [Day・Period]	前期 水曜日 4時限		

授業テーマ [Title]	自然現象や社会現象を可視化するための思考手段である数理的手法を、データサイエンスの観点から学び直し、データの収集、処理、解析、表現のための基礎知識と基本概念を身につけます。			
授業の到達目標 [Objectives]	データサイエンスの知識基盤である数理科学の中核概念を構成する、微分法、積分法、線形代数に関する知識と技能を修得します。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	◎			○
授業内容 [Course Contents]	高校数学における微分法、積分法、線形代数法を、データサイエンスの観点から、これらの手法がもつ特徴や意味を理解し、計算法を修得します。修得過程を通して、数理科学がデータサイエンスにとって、なぜ重要なのかに気づく。			
授業計画 [Class Plan]	各回の主題は以下です。なお、高校数学の履修状況、講義内容の理解度や修得度を考慮しながら進める予定です。 1. データサイエンスと数理科学ーデータサイエンスにおける数学の意味や価値 2. n次関数の微分法 3. 三角関数、指数関数、対数関数の微分法 4. 方程式の極大値と極小値 5. 微分法のまとめと応用 6. 面積と積分法 7. 体積と積分法 8. 積分法のまとめと応用 9. 微積分の応用ー微分方程式による現象のモデリング 10. X-Y座標系と極座標系によるベクトル表現と内積・外積 11. 行列の定義と一次変換 12. 行列と連立1次方程式 13. 行列式の定義と面積・体積 14. 固有値と固有ベクトルの定義と求め方 15. 線形代数のまとめと応用			
授業の進め方 [Method]	講義形式で行うが、演習を行う場合には主体的・能動的な学修手法を採り入れます。修得度は、知識「わかる」、技能「できる」、資質・能力「身につけている」という視点で自己点検・評価 (Self-Assessment) します。			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	提出課題や質問内容に対して、総括や講評の形で解説します。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☒ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☐ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☒ その他 (自己点検・評価及び振り返りなど)			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	中間・期末試験 (80%)、課題レポートの取組姿勢や関与等 (20%) を基に、基礎知識や基本概念の修得度や理解度、その応用力の観点から総合評価します。詳細な方針等は初回講義で示します。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	単位の実質化 (Study Load) に照らした2単位に相当する課外学修量は週3～4時間です。扱う主題や個々の既習内容に依存しますので、適切に割り当ててください。なお、事前・事後の割合は主題ごとに示します。 事前学修は、各回の主題に関する高校数学の修得知識を自己点検します。 事後学修は、課題レポートや振り返りレポートを通して、修得した知識や技能を確実にします。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	受動的から能動的な学修姿勢へ、高等教育では質的な意識転換が求められています。データサイエンスから観た情報数理の基礎知識と基本概念を学び、苦手意識を克服してください。			
履修上の注意 [Notes]	高校数学など数学関連書籍を参照・復習できるようにしておくことが望ましい。復習を十分に行っていることを前提に講義を進めるため、課外学修を確実に行ってください。			
キーワード [Keyword]	データサイエンス、数理科学、微分法、積分法、線形代数法、ベクトル、行列、行列式			
教科書 [Textbook]	中野友裕:『大学新入生のためのリメディアル数学(第2版)』, 森北出版 必要時に応じて、プリント等を配布、もしくはインターネット上で入手可能な資料を示します。			

参考書 [Supplementary Materials]	高等数学の教科書「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」、所持していれば「数学Ⅲ」、それ以外は主題ごとに示します。
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

検索条件入力

開講年度	2024年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	データ分析入門
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	データ分析入門		
担当教員 [Lecturer]	早瀬 光浩		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	情デ		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	前期
曜日・時限 [Day・Period]	前期 金曜日 2時限		

授業テーマ [Title]	Excelを利用したデータ分析の基礎			
授業の到達目標 [Objectives]	Excelを利用してデータの基本統計量が求められることができ、基礎的な相関分析と回帰分析ができる。また、データの可視化ができる。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	○	○		◎
授業内容 [Course Contents]	近年は様々な形式や種類のデータが膨大に蓄積されるようになり、蓄積されたデータを客観的に分析し、データの傾向を明らかにするためのスキルがもてられている。本授業においては、データ分析の初学者を対象とし、数値データやカテゴリデータなどのデータの特徴を知ることから始め、平均や標準偏差などの記述統計と検定などの統計的検定手法の基本を理解することを目的とする。さらには、データの可視化手法を学び、データ分析の入門となる基礎を修得し、応用への力を養う。			
授業計画 [Class Plan]	1. データ分析とは 2. データの概要や特徴を把握する(1) データの代表値 3. データの概要や特徴を把握する(2) データの形 4. データの概要や特徴を把握する(3) データのばらつき 5. 外れ値の発見と対処方法 6. データ分析と確率 7. 相関分析 8. 回帰分析 9. 仮説検定(1) 仮説検定の基本、過去の平均値との差の検定 10. 仮説検定(2) 2種類のデータの散らばりの差の検定、2種類のデータの平均値の差の検定 11. 仮説検定(3) データの割合の差の検定 12. データの可視化(1) データ分析で使うグラフ 13. データの可視化(2) 数量を比較するグラフ、全体像を把握するグラフ 14. データの可視化(3) 関係性を調べるグラフ、変化を確認するグラフ 15. データの可視化(4) 内訳を比較するグラフ、バレー図			
授業の進め方 [Method]	コンピュータを利用した演習が中心となる。教員による解説の後に、30分程度の演習時間を設け課題に取り組む。また、Google Classroomに資料を掲載するが、必要があれば印刷して持参すること。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	前回の課題の解答に関して次回授業時に解説する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☐ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☐ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他()			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	提出された課題(100%)で評価する。 <評価観点> ・記述統計による分析ができる ・統計的仮説検定ができる ・データの可視化ができる			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	事前学修: 資料を熟読し、理解を深めること(1時間)。 事後学修: 課題に取り組むと共に、配布された資料を必ず復習し、Excelによる分析の練習を繰り返し行うこと(3時間)。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	Excelの操作を学びながら、データ分析の基礎の修得を目指します。人によっては知っている操作方法等もあるかもしれませんが、確実に定着を図る意味でもきちんと実践していきましょう。Excelの操作に不慣れな人は、諦めずに触る時間を増やし何度も繰り返し練習してください。不明な点や疑問点があれば、すぐに聞いてください。			
履修上の注意 [Notes]	特になし。			
キーワード [Keyword]	Excel, データ分析, 記述統計, 統計的検定, 可視化			
教科書 [Textbook]	日花 弘子・『Excel データ分析の教科書』・SBクリエイティブ			

参考書 [Supplementary Materials]	なし。(授業中に指示する)
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

検索条件入力

開講年度	2025年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	データサイエンス入門
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	データサイエンス入門		
担当教員 [Lecturer]	早瀬 光浩		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	情デ		
学年 [Year]	2年生	開講期 [Semester]	前期
曜日・時限 [Day・Period]	前期 木曜日 3時限		

授業テーマ [Title]	データサイエンスの基本的な手法の修得			
授業の到達目標 [Objectives]	問題に対する適切な手法を選択し、基礎的なデータ分析ができる。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	○	○		◎
授業内容 [Course Contents]	データサイエンスは、データの中から、本質を見つけ出して、様々な問題を解決するアプローチのことである。データを分析するには、数学や統計の知識やスキルに加え、データ理解、データ加工・処理、モデリングなど人間的な視点からの分析力も必要となる。本授業においては、データサイエンスの初学者を対象とし、データ分析のためのツールを活用しながら、データの加工・可視化に取り組む。また、回帰分析など基本的な推測手法を学び、データの数値予測のスキルを養う。			
授業計画 [Class Plan]	1. データサイエンスの基本 2. データ分析で使うライブラリの基礎 3. データビジュアライゼーションの基礎 4. データを代表する値 5. データのばらつきを表す尺度 6. 四分位数と箱ひげ図 7. データの相対的な関係 8. データの相関 9. 確率と確率分布 10. 推測統計学 11. 統計的推定 12. 統計的検定(1) 1標本の検定 13. 統計的検定(2) 2標本の検定 14. 高度な分析(1) 移動平均法と指標平滑法 15. 高度な分析(2) 線形単回帰			
授業の進め方 [Method]	コンピュータを利用した演習が中心となる。教員による解説の後に、30分程度の演習時間を設け課題に取り組む。また、Google Classroomに資料を掲載するが、必要があれば印刷して持参すること。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	前回の課題の解答に関して次回授業時に解説する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☐ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☒ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☐ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他（ ）			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	提出された課題(100%)で評価する。 <評価観点> ・データの可視化の理解・実装 ・記述統計学の理解・実装 ・統計的推定の理解・実装 ・統計的検定の理解・実装 ・時系列データ・大規模データの理解・実装			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	事前学修: 資料を熟読し、理解を深めること(1時間)。 事後学修: 課題に取り組むと共に、配布された資料を必ず復習し、Pythonで実装した処理の流れを理解すること(3時間)。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	事前にプログラミングの知識を有する必要はありませんが、コンピュータの一般的な操作を修得しておく必要があります。1年次の「データ分析入門」をより深く学ぶことができ、社会に出てからも役立つスキルです。興味・関心を持って取り組んでください。			
履修上の注意 [Notes]	コンピュータの基本操作を修得しておく必要があります。 BYODで進めます。毎時、必ずノートPCを持参してください。 また、初回に必要なソフトウェア等のインストール作業を行います。履修する予定の学生は初回に必ず出席してください。			
キーワード [Keyword]	Python, データ分析, プログラミング, 確率・統計, 機械学習, データの可視化			

教科書 [Textbook]	指定しない.
参考書 [Supplementary Materials]	寺田 学, 辻 慎吾, 鈴木 たかのり, 福島 真太郎・『Pythonによるあたらしいデータ分析の教科書』・翔泳社 塚本 邦尊, 山田 典一, 大澤 文孝・『東京大学のデータサイエンティスト育成講座』・マイナビ出版
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

検索条件入力

開講年度	2024年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	AI・データと社会
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	AI・データと社会		
担当教員 [Lecturer]	鳥居 隆司 / 松山 智恵子 / 向 直人 / 木田 勇輔 / 早瀬 光浩 / 福安 真奈 / 塩澤 友樹 / 矢島 彩子		
授業科目区分 [Classification]	教養教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	教養教育科目		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 土曜日 1時限		

授業テーマ [Title]	データやAIを活用するための基礎知識を学ぶ			
授業の到達目標 [Objectives]	・現代社会におけるデータサイエンスやAIの重要性について理解し、その利活用の現状について把握すること ・データやその分析結果を読み取るための基礎知識を身に付けること ・データやAIを活用するための留意事項を把握し、その重要性を理解すること ・プログラミング、アルゴリズム、機械学習などAI・データサイエンス分野における技術的基礎を理解すること			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
授業内容 [Course Contents]	本授業はメディア授業科目である。社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが利活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。(オムニバス形式/全15回)			
授業計画 [Class Plan]	1.社会で起きている変化:人間の知的活動とAIの関係性、AI・データサイエンスを学ぶ意義(木田) 2.社会で活用されているデータ:調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式(福安) 3.データ・AIの活用領域:データ・AIなど様々な領域での活用の広がり(福安) 4.データ・AI利活用のための技術:データ解析やデータ可視化の諸手法(向) 5.データ・AI利活用の現場:データサイエンスの手順、データ・AI利活用事例(向) 6.データ・AI利活用の最新動向1:AI等を活用した新しいビジネスモデルやAI最新技術の活用例(矢島) 7.データ・AI利活用の最新動向2:前回に引き続き事例紹介、現在のトレンド(矢島) 8.データを読む1:データの種類、分布、代表値とばらつきなど記述統計学の基礎知識(塩澤) 9.データを読む2:標本抽出、誤差、相関と因果など推測統計学の基本的な考え方(塩澤) 10.データ・AIを扱う上での留意事項:ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど倫理的な注意事項(松山) 11.データを守る上での留意事項:情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術と事故例(松山) 12.データ構造とプログラミング基礎:データの基本的な構造とプログラミングの基礎(鳥居) 13.アルゴリズム基礎:アルゴリズムの表現方法と基本的なアルゴリズム(鳥居) 14.画像解析:画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎(早瀬) 15.データ活用実践:教師なし学習、教師あり学習の違いと具体的事例(早瀬)			
授業の進め方 [Method]	メディア授業科目として全学部からの受講を想定しているため、オンデマンド形式で教材を配信する形で授業を実施する。受講者は教材による学習を行った上で、課題に回答すること。なお、授業の双方向性を担保するために、LMSを用いた意見表明やディスカッションを求めていることがある。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	LMSを通じて課題の得点をフィードバックする。受講者からの質問があった場合は、配信する教材やLMSを通じて回答する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☐ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☒ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他()			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	毎回の課題(100%) <評価観点>各教員が授業内容に沿った課題を10点満点で出題する。課題の形式は選択式、記述式、論述式の問題を組み合わせたものである。選択式・記述式の問題では授業の内容を正確に理解できているかを問うものである。また、論述式の問題では各自がその回のテーマについて発展的な考察を行っているかどうかを問う。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	事前学修:各回のキーワードを提示するので、その意味を各自で調べておくこと(1時間) 事後学修:授業教材を復習し、課題に回答すること。また、各回で意見表明やディスカッションを求められた場合は、それらに参加すること(3時間)			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	データサイエンスやAIは非常に重要な分野ですが、難解なイメージを持っている方も少なくないかもしれません。本授業では文系の学生もターゲットにしながら、データサイエンスやAIについてそのエッセンスを基礎から理解することを目的とした科目です。ぜひ受講を検討してください。			

履修上の注意 [Notes]	オンデマンド形式で運用しますので、自宅で受講する予定の方はインターネット環境を整備するようにしてください。授業に関する質問は全体についてはコーディネーターの木田、各回の授業についてはその回の担当者にお問い合わせください。
キーワード [Keyword]	AI、機械学習、データ、社会
教科書 [Textbook]	指定しない
参考書 [Supplementary Materials]	授業内で指示する
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	矢島:ITコンサルティング企業での実務経験に基づき、データサイエンスやAI分野における最新の動向を講義する

検索条件入力

開講年度	2024年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	社会調査入門
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	社会調査入門		
担当教員 [Lecturer]	金南 咲季		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	現社		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 火曜日 2時限		

授業テーマ [Title]	「社会調査」に関する基礎知識・技法を体系的に修得する。			
授業の到達目標 [Objectives]	社会調査に関する基礎知識・技法を体系的に学ぶことを通じて、1)社会調査の意義や歴史的展開、今日的課題を深く理解することができる。2)自らの関心に沿って実際に調査を設計・実施していく際に必要となる作法や手順を身につけることができる。3)身の回りで行われている社会調査を読みこなしていくためのリテラシーを身につけることができる。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	◎	○	○	
授業内容 [Course Contents]	本授業では、様々な社会現象を把握する方法として発展してきた「社会調査」に関する基礎知識・技法を体系的に解説する。具体的には、「社会調査の目的・意義」「社会調査の歴史」「主要な調査方法の種類」「データ収集の手順」「分析方法」「調査倫理」について、具体的な事例を取り上げながら概説していく。			
授業計画 [Class Plan]	1 オリエンテーション: 社会調査とは何か 2 社会調査の目的・意義 3 社会調査の種類: 質的調査／量的調査／Mixed Methods、国家・行政による調査／民間機関による調査／学術調査 4 社会調査の歴史的展開: 近代的社会調査の出発から今日的課題まで 5 社会調査のデザイン: 問いの発見／調査計画の具体化 6 質的調査の方法(1): 実査の方法(参与観察／インタビュー調査／ドキュメント分析など) 7 質的調査の方法(2): データの収集手順 8 質的調査の方法(3): 具体的事例の検討(「聞いてみる」「やってみる」「行ってみる」「読んでみる」) 9 質的調査の方法(4): データの整理と分析／調査レポート・論文の執筆 10 調査倫理: 結果の公表・データの管理／社会調査の暴力性 11 量的調査の方法(1): 実査の方法(訪問調査、郵送調査、留置調査、電話調査、インターネット調査など) 12 量的調査の方法(2): 調査票の作成(概念の構成、変数、仮説) 13 量的調査の方法(3): 調査対象者の選定(サンプリング、確率抽出法)／データの収集・コーディング 14 量的調査の方法(4): 統計的分析の基礎(記述統計、クロス集計、分散分析、相関分析、因子分析、重回帰分析など) 15 まとめ: 身の回りの社会調査とのつきあい方／自身の社会調査の実施に向けて			
授業の進め方 [Method]	基本的に講義形式で行う(適宜、講義内容と関連するワークをペアやグループで行ってもらうこともある)。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	授業中に教員が必要に応じてコメントを行い、良い点や今後に向けた改善点などをフィードバックする。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☒ グループワーク ☒ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☒ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他()			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	授業への積極的な参加(60%)、確認テスト(40%)をもとに評価する。 <「授業への積極的な参加」の評価観点> ・授業中に積極的な姿勢で講義や課題等に取り組むことができる。 ・授業中に課すリフレクションペーパー(小テストを含む)等から、基本概念や語句の意味を正確に理解するとともに、自身の考えを整理し展開することができる。ことが読み取れる。 <「確認テスト」に関する評価観点> ・授業で学んだ知識を正確に理解できている。 ・授業での学びを踏まえて自身の考えを整理し、論理的に展開することができる。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	・授業中の指示に基づき、テキストを事前に読んでおくこと(2時間)。 ・小テストや確認テストに向けて、授業内容の復習に努めること(2時間)。			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	・本授業では、卒業論文に向けてだけでなく、社会に出てからも有用な社会調査の方法論について幅広く学ぶことができる。積極的な姿勢で受講してほしい。			
履修上の注意 [Notes]	・欠席回数や遅刻等には十分留意すること。 ・本授業は、「社会調査士」の認定科目の一つ(資格標準カリキュラム「A」の該当科目)である。資格の			

	取得を検討している学生は各自で情報収集を行い、必要な科目を随時受講していくこと(参考: 一般社団法人 社会調査協会 HP http://jasr.or.jp/for_students/what_sr/)
キーワード [Keyword]	質的調査、量的調査、Mixed Methods、参与観察、インタビュー、仮説検証型調査、仮説生成型調査、調査票、サンプリング、統計分析、調査倫理
教科書 [Textbook]	三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則編著, 2023, 『はじめての社会調査』世界思想社.
参考書 [Supplementary Materials]	・轟亮・杉野勇・平沢和司編著, 2021, 『入門・社会調査法[第4版]: 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. ・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法: 他者の合理性の理解社会学』有斐閣. ・前田拓也ほか編, 2016, 『最強の社会調査入門: これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版. ・大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房. ・好井裕明・三浦耕吉郎編, 2004, 『社会学的フィールドワーク』世界思想社. そのほか、必要に応じて授業中に紹介、または資料を配付する。
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

検索条件入力

開講年度	2025年度
開講所属	
科目分類	
対象学年	
授業科目名	社会データ分析基礎
担当教員	教員選択
開講期	
曜日	
時限	
キーワード等	 AND
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 ☐

クリア

検索

戻る

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	社会データ分析基礎		
担当教員 [Lecturer]	木田 勇輔		
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	現社		
学年 [Year]	2年生	開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 火曜日 4時限		

授業テーマ [Title]	統計学と統計分析の基礎			
授業の到達目標 [Objectives]	この授業では統計学の基礎的な考え方を身につけるとともに、統計ソフトの操作を通じて基礎的な統計分析を実施するスキルを身につける。			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
	○			◎
授業内容 [Course Contents]	データサイエンスの時代に求められる、データを用いて社会を分析するための手法の基礎を学ぶ授業である。この授業ではExcelやRといったツールを用いて、実際に統計量の算出や各種の分析に関する演習を実施する。まず平均、中央値、分散、標準偏差といった基本的な統計量の算出について紹介した後に、相関係数の算出やクロス集計といった2変量の分析手法を扱う。また、確率論の基礎や様々な確率分布を紹介しながら、検定や推定といった推測統計学の基礎を解説する。加えて、統計分析で多用される回帰分析の基礎をその重要性とともに理解することが目標となる。			
授業計画 [Class Plan]	1. イントロダクション: 社会データ分析の基礎 2. 社会調査の歴史とデータ分析 3. データ分析技術の発展 4. Rプログラミング入門 5. 母集団と標本 6. データの分布と統計量 7. 確率論の基礎と確率分布 8. 推測統計と信頼区間 9. 平均値の比較と検定 10. クロス集計とカイニ乗検定 11. 散布図と相関係数 12. 回帰分析 13. 重回帰分析 14. テキストマイニング 15. 授業のまとめ			
授業の進め方 [Method]	講義形式のパートと、コンピューターを用いた演習形式のパートの双方がある。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	小課題および授業内課題については、自身の提出状況をシステム上で受講者が確認できる。課題の完成が不十分な場合にはLMS上で返却の際に指摘する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	☐ グループワーク ☐ ディベート・討議 ☐ フィールドワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 学外授業 ☐ 製作 ☐ 実験 ☐ インタビュー、質問紙調査による情報収集 ☒ 図書館やインターネットによる情報収集 ☐ ワークショップ学習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ 課題研究 ☐ その他（ ）			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	小課題(80%)、小テスト(20%) <小課題の評価観点> 講義形式のパートでは講義で扱った用語や講義の内容理解を問う復習問題を課し、演習形式のパートでは指定した作業を完成させる課題を課す。 <小テストの評価観点> 最終回で行う小テストはこれまでの課題から出題する。これにより、知識の定着度を問う。			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	事前学習: 教科書指定範囲の通読。(2時間) 事後学習: 配布資料の復習と課題提出。(2時間)			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	メディア社会領域での研究手法を学ぶ重要な科目です。コンピューターを用いた演習を行うため、主体的に課題に取り組む姿勢が必要です。しっかりと学んだうえで高学年次での学修(とくに社会調査に関連する科目)につなげてください。			
履修上の注意 [Notes]	授業初回で利用するLMSについて案内するので、2回目の授業までに必ず登録を行う。選択必修科目の一つであり、1年次に履修することが望ましい。			
キーワード [Keyword]	社会調査、メディア社会、リサーチ			
教科書 [Textbook]	倉田博史『大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』角川文庫(※電子書籍可)			

参考書 [Supplementary Materials]	授業内で適宜指示する
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

Sugiyama

嵯山女学園大学

情報社会学部

履修の手引

..... 2024

卒業まで
使用します

1. 教養教育の
目的

教養教育は、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会の要請に応える基礎的能力の育成を目的としています。

幅広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、異文化・自文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会の要請に応える基礎的能力として、コミュニケーション能力、情報処理能力、メディア活用力・情報収集分析力、論理的思考力・課題発見力等を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域 1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域 2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域 3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域 4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理科学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域 5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域 6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域 7 トータルライフデザイン	女性が社会で自立して生きていくための基礎的能力・スキルを育成するとともに、他者と共に生きる社会の中でさまざまな役割を果たし、ライフステージにおける課題を乗り越え、生涯というタイムスパンで自分の人生をデザインするための基礎的な力を育成します。

3. 全学共通

教養教育科目を全学部で共通化し、原則として全ての教養教育科目を履修することができます。

ただし、カリキュラム等の理由により、一部の科目は特定の学部生しか受講することができません。

4. 履修方法

教養教育科目時間割から、履修を希望する科目を、履修登録期間中に S*map で登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC—010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC—010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC—010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC—010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC—071
	外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC—072
健康とスポーツ 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP—010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP—020
	スポーツ実習 A	1	1	ZK01-SP—030a
	スポーツ実習 B	1	1	ZK01-SP—030b
トータルライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-CL—010
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-CL—020
	生活と防災	2	1	ZK01-CL—030
	思考のスキル入門	2	1	ZK01-CL—040
	AI・データと社会	2	1	ZK01-CL—050-M
	ワークキャリアデザイン	2	1	ZK01-CL—060
	ビジネススキル入門	2	2	ZK01-CL—070
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-CL—081
	キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-CL—082

※「健康科学」は教育学部生のみ受講可能です。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

情報デザイン学科 カリキュラム・マップ *特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基礎教育科目	共通必修	情報社会学概論	IK11-AA-010-Y	1	◎	○	
	キャリア形成	日本語ライティング基礎	IK11-CE-010	1		○	◎
		プレゼンテーション技法	IK11-CE-020	1		○	◎
		女性とライフコース	IK11-CE-030	1		○	◎
		国際化とキャリア	IK12-CE-040	2		○	◎
		キャリアデザイン	IK12-CE-050	2	○	◎	
		日本語ライティング応用	IK13-CE-060	3		○	◎
		コミュニケーション・トレーニング	IK13-CE-070	3		○	◎
		プロジェクトマネジメント	IK13-CE-080	3	◎	○	
		キャリアと適応	IK13-CE-090	3	◎	○	○
	情報リテラシー	メディア・リテラシー	IK11-IL-010-YT	1	◎	○	
		インターネット入門	IK11-IL-020-Y	1	◎		○
		情報セキュリティと倫理	IK11-IL-030-Y	1	◎	○	○
		デジタルメディア基礎	IK11-IL-040-Y	1	○		◎
		情報数理	IK12-IL-050	2	◎		○
		情報処理概論	IK11-IL-060	1	◎	○	
		情報と法	IK12-IL-070-Y	2	○		◎
	英語	英語リーディング・ライティングA	IK11-EN-010a	1	◎	◎	○
		英語リーディング・ライティングB	IK11-EN-010b	1	◎	◎	○
		英語リーディング・ライティングC	IK12-EN-010c	2	○		◎
		英語リーディング・ライティングD	IK12-EN-010d	2	○		◎
		ホームステイ・イングリッシュ	IK12-EN-020	2	○		◎
		日本事情英語	IK12-EN-030	2			◎
		資格試験対策英語	IK12-EN-070	2		○	◎
		Travel English	IK12-EN-080	2			◎
		スキルアップ英語A	IK13-EN-090a	3	○		◎
		スキルアップ英語B	IK13-EN-090b	3		○	◎
		English for Your Working Life	IK13-EN-100	3	○		◎
		英語総合演習 (PBL)	IK13-EN-110	3		◎	○
	演習	基礎演習	IK11-SE-010	1		◎	○
基幹科目	データサイエンス	データ分析入門	ID31-DS-010	1	○	○	◎
		情報基礎数学	ID31-DS-020	1	◎		○
		DX	ID31-DS-030-Y	1	◎		◎
		プログラミングⅠ	ID31-DS-040a-Y	1	○		◎
		情報処理論	ID31-DS-050-Y	1	◎		○
		情報産業	ID31-DS-060-Y	1	◎	○	
		人工知能入門	ID32-DS-070-Y	2	◎	○	
		プログラミングⅡ	ID32-DS-040b-Y	2	○		◎
		情報通信論	ID31-DS-080-Y	1	◎	○	○
		データベース	ID32-DS-090-Y	2	◎		○

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
データサイエンス	情報マネジメント	ID32-DS-100	2	○	◎	○	◎
	UI/UX	ID32-DS-110	2	◎			○
	データサイエンス入門	ID32-DS-120-Y	2	○	○		◎
基幹科目	オープンデータ入門	ID32-DS-130-Y	2	◎	○		
	コミュニケーションデザイン	表現基礎	1	○			◎
		情報デザイン論	1	◎	○		○
		グラフィックデザイン入門	1	○			◎
		メディアデザイン論	1	◎	○		
		映像・音響情報論	1	○			◎
		認知心理学	2	◎	○	○	
		学習環境デザイン論	2	○	◎	○	
		web 制作	2	○			◎
		画像編集技法	2	○			◎
		映像撮影技法	2	○			◎
		サウンドデザイン	2	○			◎
		遊びと学びのデザイン	2		○		◎
	情報・アーカイブ	メディア・コンテンツ分析	1	◎			○
		図書館概論	1	◎	○		
		博物館概論	1	○	◎		
		デジタルアーカイブ論	2	○			◎
		情報社会と情報技術	2	◎			○
		メディア・コンテンツ論	2	◎	○	○	
		生涯学習概論	2	○	◎		
		生涯学習各論	2		◎	○	
		図書・図書館史特論	2	◎	○		
		出版メディア論	2	◎		○	
	演習	情報検索技法	2	○			◎
		博物館資料論	2	◎	○		
		博物館経営論	2	◎	○		
		物質文化論	2	○	◎		
		美術史概論	1	◎	○		
		文化遺産論	1	◎	○		
		情報処理演習A（クリエイション）	2	○	○	◎	◎
		情報処理演習B（リサーチ）	2	○		◎	◎
展開科目	データサイエンス	情報ネットワーク論	2	◎	○	○	○
		意思決定の科学	3	○	◎		
		情報システム論	2		○	◎	
		インターネット応用	3	◎	○	○	○
		人工知能応用	3	◎	○		○
		ビッグデータ演習	3	○			◎
		プログラミング応用	3	○			◎
		シミュレーション	3	○	◎	○	◎

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
展開科目	データサイエンス	ビジネスと情報	ID43-DS-090-Y	3	◎	◎	○
		行政と情報	ID43-DS-100-Y	3	◎	◎	○
		福祉と情報	ID43-DS-110-Y	3	◎	◎	○
		データサイエンス応用	ID43-DS-120-Y	3	○	○	◎
		データ活用マネジメント	ID43-DS-130	3	○	◎	◎
		ゲームプログラミング	ID43-DS-140	3	○		◎
		ゲーム AI	ID43-DS-150	3	◎		○
		AR・VR	ID43-DS-160	3	○		◎
	コミュニケーションデザイン	映像・映画学	ID42-CD-010	2	○	◎	
		学習デザイン研究	ID43-CD-020	3	○	◎	○
		色彩コミュニケーション	ID42-CD-030	2	◎	○	○
		アニメーション制作	ID42-CD-040-Y	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用A	ID42-CD-050a	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用B	ID42-CD-050b	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用C	ID42-CD-050c	2	○		◎
		ファッション心理学	ID43-CD-060	3	◎	○	
		web プログラミング	ID43-CD-070-Y	3	○		◎
		メディアデザイン研究	ID43-CD-080	3	○	◎	
		動画制作	ID43-CD-090-Y	3	○		◎
		デジタルサウンド演習	ID43-CD-100	3	○		◎
		デジタル・ファブ리케이션	ID43-CD-110	3	○		◎
		三次元グラフィックス	ID43-CD-120-Y	3	○	◎	○
	情報アーカイブ	日本の書物・ことば	ID42-IA-010	2	◎	○	
		図書館サービス概論	ID42-IA-020-T	2	◎	○	
		情報サービス論	ID42-IA-030-T	2	◎	○	
		博物館教育論	ID42-IA-040-G	2	○		◎
		博物館展示論	ID42-IA-050-G	2	○		◎
		子どもの読書活動と図書館	ID42-IA-060-T	2	◎	○	
		博物館資料保存論	ID42-IA-070-G	2	○		◎
		博物館情報・メディア論	ID42-IA-080-G	2	○		◎
		共有人類学	ID42-IA-090	2	○	◎	○
		地域の課題と情報技術	ID42-IA-100	2	◎	○	○
		美術史演習	ID43-IA-110	3		○	◎
		編集デザイン	ID43-IA-120-Y	3	○		◎
		文化財論	ID43-IA-130	3	○		◎
		デジタルアーカイブ応用	ID43-IA-140	3		○	◎
	演習	プロジェクト演習A	ID43-SE-011	3	○	○	◎
		プロジェクト演習B	ID43-SE-012	3	○	○	◎
卒業研究	卒業研究A		ID44-GS-011	4	○	◎	◎
	卒業研究B		ID44-GS-012	4	○	◎	◎

現代社会学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基礎教育科目	情報社会学概論	IK11-AA-010	1	◎	○		
	日本語ライティング基礎	IK11-CE-010	1		○		◎
	プレゼンテーション技法	IK11-CE-020	1		○		◎
	女性とライフコース	IK11-CE-030	1		○	◎	
	国際化とキャリア	IK12-CE-040	2		○	◎	
	キャリアデザイン	IK12-CE-050	2	○	◎		
	日本語ライティング応用	IK13-CE-060	3		○		◎
	コミュニケーション・トレーニング	IK13-CE-070	3		○		◎
	プロジェクトマネジメント	IK13-CE-080	3	◎	○		
	キャリアと適応	IK13-CE-090	3	◎	○	○	
	メディア・リテラシー	IK11-IL-010-T	1	◎	○		
	インターネット入門	IK11-IL-020	1	◎		○	○
	情報セキュリティと倫理	IK11-IL-030	1	◎	○	○	○
	デジタルメディア基礎	IK11-IL-040	1	○			◎
	情報数理	IK12-IL-050	2	◎			○
	情報処理概論	IK11-IL-060	1	◎	○		
	情報と法	IK12-IL-070	2	○		○	◎
	英語リーディング・ライティングA	IK11-EN-010a	1	◎	◎	○	◎
	英語リーディング・ライティングB	IK11-EN-010b	1	◎	◎	○	◎
	英語リーディング・ライティングC	IK12-EN-010c	2	○			◎
	英語リーディング・ライティングD	IK12-EN-010d	2	○			◎
	ホームステイ・イングリッシュ	IK12-EN-020	2	○			◎
	日本事情英語	IK12-EN-030	2			○	◎
	資格試験対策英語	IK12-EN-040	2		○		◎
	Travel English	IK12-EN-050	2			○	◎
	スキルアップ英語A	IK13-EN-060a	3	○			◎
	スキルアップ英語B	IK13-EN-060b	3		○	◎	◎
	English for Your Working Life	IK13-EN-070	3	○			◎
	英語総合演習 (PBL)	IK13-EN-080	3		◎	○	○
	基礎演習	IK11-SE-010	1		◎		○
学科共通科目	社会学概論	IS31-BB-010-Y	1	○	○	◎	
	社会調査入門	IS31-BB-020	1	◎	○	○	
	社会データ分析基礎	IS32-BB-030-Y	2	○			◎
	情報検索技法	IS32-BB-040	2	○			◎
	社会調査の技法	IS32-BB-050	2	○	◎		

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ／科目ナンバリング

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基幹科目	メディア・スタディーズ	ソーシャルメディア論A	IS32-MS-010a-Y	2	◎	○	
		ソーシャルメディア論B	IS32-MS-010b-Y	2	◎	○	
		メディア社会論入門	IS31-MS-020	1	◎	○	
		情報社会論A	IS32-MS-030a	2	◎	○	
		情報社会論B	IS32-MS-030b-Y	2	◎	○	
		ジャーナリズム入門	IS31-MS-040	1	◎	○	
		ジャーナリズム論A	IS31-MS-050a	1	○	◎	
		ジャーナリズム論B	IS32-MS-050b	2	○	◎	
		映像制作基礎	IS32-MS-060	2	○		◎
		マスメディア論A	IS32-MS-070a-Y	2	◎	○	
		マスメディア論B	IS32-MS-070b-Y	2	○	○	◎
		放送社会論	IS32-MS-080	2	◎	○	
		メディア文化論	IS32-MS-090	2	◎	○	
		出版メディア論	IS32-MS-100	2	◎	○	
		広告メディア論	IS32-MS-110	2	◎	○	
	観光・まちづくり	観光学入門	IS31-TC-010-Y	1	◎	○	
		観光とホスピタリティ	IS32-TC-020	2		○	◎
		まちづくり学	IS32-TC-030	2		◎	○
		エリアマネジメント論	IS32-TC-040	2		◎	○
		都市の歴史	IS32-TC-050-Y	2	◎	○	
		地域社会論	IS32-TC-060-Y	2	◎	○	
		市民活動論	IS31-TC-070-Y	1	◎	○	
		地元学	IS32-TC-080-Y	2	◎		○
		地域文化資源論	IS31-TC-090-Y	1		◎	○
		都市空間論	IS32-TC-100-Y	2	◎	○	
		地域デザインの手法	IS32-TC-110-Y	2	◎	○	
		リスクマネジメント	IS32-TC-120-Y	2		◎	○
		都市とジェンダー	IS32-TC-130-Y	2		◎	○
		観光と地域	IS32-TC-140-Y	2		◎	○
		世界遺産論	IS31-TC-150-Y	1	◎	○	
	持続可能な社会	福祉社会学A	IS31-SS-010-Y	1	◎	○	
		生と死の社会学	IS32-SS-020-Y	2	◎	○	
		移民と教育	IS32-SS-030	2	◎	○	○
		現代教育論	IS32-SS-040	2	◎	○	◎
		家族とジェンダー	IS31-SS-050-Y	1	○	○	◎
		国際社会論	IS32-SS-060-Y	2		○	◎
		多文化共生論	IS32-SS-070-Y	2	○	◎	
		言語政策論	IS32-SS-080-Y	2	○	◎	
		社会思想史	IS32-SS-090-Y	2	◎	○	
		歴史と記憶	IS32-SS-100-Y	2	○	◎	
	演習	基幹演習A	IS32-SE-011	2		◎	○
		基幹演習B	IS32-SE-012	2		◎	○

授業科目			科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
展開科目	メディア・スタディーズ	若者とメディア	IS43-MS-010	3	◎		○	
		デジタルマーケティング論	IS43-MS-020	3	◎	○		
		社会データ分析応用	IS43-MS-030-Y	3	○			◎
		都市とメディア	IS43-MS-040	3	◎		○	
		情報社会史	IS43-MS-050-Y	3	◎		○	
		映像制作応用	IS43-MS-060	3	○			◎
		英語圏メディア事情	IS43-MS-070	3	◎		○	
		ニュースの論点	IS43-MS-080	3	◎	○	○	
		メディア産業論	IS43-MS-090	3	◎		○	
	観光・まちづくり	観光まちづくり論	IS43-TC-010	3	○	◎		
		観光産業論	IS43-TC-020-Y	3	○	◎		
		都市計画論	IS43-TC-030-Y	3	◎	○		
		風景デザイン論	IS43-TC-040-Y	3		○	◎	
		コミュニティデザイン論	IS43-TC-050-Y	3	◎			○
		地域文化の社会学	IS43-TC-060-Y	3	◎		○	
		東海・名古屋研究	IS43-TC-070-Y	3	○	◎		
		フィールドワーク技法	IS43-TC-080-Y	3			○	◎
		観光デザイン演習	IS43-TC-090	3		○		◎
	持続可能な社会	医療の社会学	IS43-SS-010-Y	3	◎	○		
		福祉社会学B	IS43-SS-020-Y	3	◎	○		
		比較社会論A	IS43-SS-030a-Y	3	◎	○		
		比較社会論B	IS43-SS-030b-Y	3	○	◎		
		比較社会論C	IS43-SS-030c-Y	3	◎	○		
		社会開発論	IS43-SS-040-Y	3	○		◎	
		地球環境問題	IS43-SS-050	3		○	◎	
	演習	プロジェクト演習A	IS43-SE-011	3	○	○	◎	◎
		プロジェクト演習B	IS43-SE-012	3	○	○	◎	◎
関連科目	歴史・文化・社会	日本史A	IS41-RE-010a	1	◎		○	
		日本史B	IS41-RE-010b	1	◎		○	
		外国史A	IS41-RE-020a	1	◎		○	
		外国史B	IS41-RE-020b	1	◎		○	
		人文地理学	IS41-RE-030	1	◎	○		
		自然地理学	IS41-RE-040	1	◎	○		
		地誌	IS41-RE-050	1	◎	○		
		美術史概論	IS41-RE-060	1	◎	○		
		文化遺産論	IS41-RE-070	1	◎	○		
		法律学（国際法を含む。）	IS41-RE-080	1	◎		○	
		政治と社会（国際政治を含む。）	IS41-RE-090	1	◎		○	
		経済と社会（国際経済を含む。）	IS41-RE-100	1	◎	○		
		宗教と社会	IS41-RE-110	1	◎	○		
		社会と倫理	IS41-RE-120	1		○	◎	
卒業研究	卒業研究	卒業研究A	IS44-GS-011	4			◎	○
		卒業研究B	IS44-GS-012	4			◎	○

(趣旨)

第1条 この規程は、相山女学園大学（以下「本学」という。）が、本学における基礎的情報教育を一元的に行うとともに、情報科学技術の研究を行うために設置する相山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 情報教育及びその方法の開発
- (2) 情報科学技術の分野における研究開発
- (3) 学術研究に必要な情報化に関する事項の企画及び各学部間の調整
- (4) 相山女学園情報センター（以下「学園情報センター」という。）が実施する情報教育等の支援
- (5) その他センターの運営に必要な業務

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、学長の命を受け、センターの事務を統括し、所属職員を掌握する。
- 3 センター長は、学園情報センター長が兼務する。

(委員会)

第4条 第2条の業務を行うために、相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関して必要な事項は、学長が別に定める。

(教育研究主幹、研究員及び教育職員)

第5条 センターに、教育研究主幹1名及び研究員若干名を置く。

- 2 教育研究主幹は、教育職員のうちから、学長が推薦し、理事長が任命する。
- 3 教育研究主幹は、第1条の趣旨を実現するために、センター長を補佐し、第2条の業務を推進する。
- 4 教育研究主幹の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 研究員は、センター長が推薦し、学長を経て理事長が任命する。
- 6 研究員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第6条 センターの庶務は、管財営繕課が行う。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に必要な事項は、運営委員会に諮り、学長が定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会の議を経なければならない。

附 則

この規程は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年規程第27号）

この規程は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第13号）

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則（令和７年規程第３７号）

この規程は、令和７年４月１日から施行する。

(趣旨)

第1条 椋山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）の業務を円滑に運営するために、椋山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長及び教育研究主幹
- (2) 各学部から選出された委員 各1名
- (3) その他センター長が必要と認めたもの

2 前項第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) センター規程等に関する事項
- (4) センターの事業計画に関する事項
- (5) 椋山女学園大学の教育カリキュラムの提供に関する事項
- (6) センターの人事に関する事項
- (7) その他センターの運営に関する必要事項

(会議と議決)

第4条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

3 委員会の議決は、出席者の過半数で決し、同数の場合は、議長の決するところによる。

4 会議には、管財営繕課長、情報専門員及び教務課長が陪席する。

(規準の改廃)

第5条 この規準の改廃は、委員会が発議し、教授会の審議を経て、大学協議会に諮り学長が決定する。

附 則

この規準は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年大規準第8号）

この規準は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成21年大規準第10号）

この規準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年大規準第4号）

この規準は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和7年大規準第8号）

この規準は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

(趣旨)

第1条 相山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）の業務を円滑に運営するために、相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長及び教育研究主幹
- (2) 各学部から選出された委員 各1名
- (3) その他センター長が必要と認めたもの

2 前項第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) センター規程等に関する事項
- (4) センターの事業計画に関する事項
- (5) 相山女学園大学の教育カリキュラムの提供に関する事項
- (6) センターの人事に関する事項
- (7) その他センターの運営に関する必要事項

(会議と議決)

第4条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

3 委員会の議決は、出席者の過半数で決し、同数の場合は、議長の決するところによる。

4 会議には、管財営繕課長、情報専門員及び教務課長が陪席する。

(規準の改廃)

第5条 この規準の改廃は、委員会が発議し、教授会の審議を経て、大学協議会に諮り学長が決定する。

附 則

この規準は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年大規準第8号）

この規準は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成21年大規準第10号）

この規準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年大規準第4号）

この規準は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和7年大規準第8号）

この規準は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

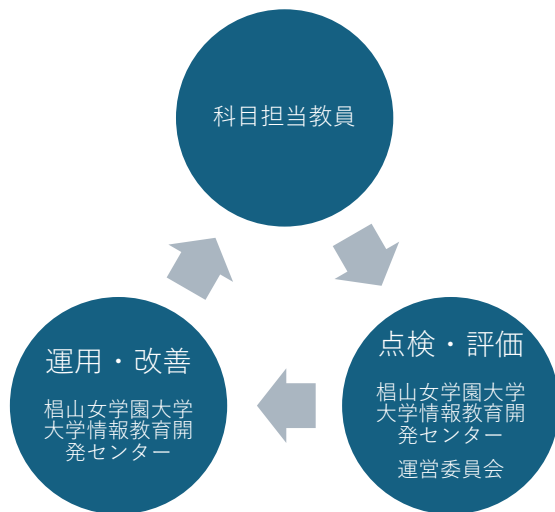
大学等名	椋山女学園大学 情報社会学部	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	椋山女学園大学 数理・データサイエンス・AI教育応用基礎プログラム（情報社会学部）	申請年度	令和 7 年度

取組概要

目的

Society5.0の基盤に係る数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を身につけ、それらを業務に効果的に活用できる人材を目指すための教育プログラムです。本プログラムはデータサイエンスやAIに関する基礎知識を身につけ、社会の様々な問題解決にアプローチする力を養うことを目的とします。

実施体制



科目構成と修了要件

学部・学科	科目名	プログラム修了要件
情報社会学部 情報デザイン学科	AI・データと社会（1年次）	教養教育科目の「AI・データと社会」（2単位）と専門教育科目の「情報基礎数学」（2単位）、「データサイエンス入門」（2単位）、「データ分析入門」（2単位）の4科目（8単位）を修得すること
	情報基礎数学（1年次）	
	データ分析入門（1年次）	
	データサイエンス入門（2年次）	
情報社会学部 現代社会学科	AI・データと社会（1年次）	教養教育科目の「AI・データと社会」（2単位）と専門教育科目の「社会調査入門」（2単位）、「社会データ分析基礎」（2単位）の3科目（8単位）を修得すること
	社会調査入門（1年次）	
	社会データ分析基礎（2年次）	

全学共通開講 教養教育科目（領域7 トータルライフデザイン）の「AI・データと社会」に加え、情報デザイン学科では、「情報基礎数学」「データ分析入門」「データサイエンス入門」の3科目、現代社会学科では、「社会調査入門」「社会データ分析基礎」の2科目を修得することで、応用基礎レベルの基礎的な知識と分析技能を獲得します。「AI・データと社会」はオンデマンド形式、その他の科目は対面形式です。

身につけられる能力

【情報デザイン学科】 社会の様々な場面で、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するために、基礎となるデータ分析やプログラミング技術を習得する。データの基本統計量が求められることができ、基礎的な相関分析と回帰分析ができるようになる。また、データの可視化ができるようになる。問題に対する適切な手法を選択し、基礎的なデータ分析ができるようになる。

【現代社会学科】 社会調査に関する基礎知識・技法を体系的に学ぶことを通じて、課題を深く理解することができるようになる。自らの関心に沿って実際に調査を設計・実施していく際に必要となる作法や手順を身につけることができるようになる。